

志賀原子力発電所周辺の 環境放射線監視結果及び温排水影響調査結果

石川県、志賀町及び北陸電力(株)は、発電所周辺の環境放射線監視及び温排水影響調査を実施しています。今回は、令和2年1月～3月の環境放射線監視結果「令和元年度 第4報」及び令和元年度秋季の温排水影響調査結果「令和元年度 第3報(秋季)」の概要をお知らせします。

環境放射線監視結果については、志賀原子力発電所に起因する環境への影響は認められませんでした。温排水影響調査結果については、全体として大きな変化は認められませんでした。

I 環境放射線監視(令和2年1月～3月)

1. 空間放射線

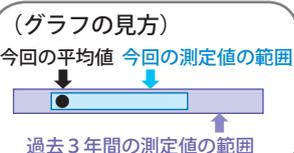
石川県は志賀原子力発電所から30kmの範囲に24局の環境放射線観測局を設置しています。また発電所では7局のモニタリングポストを設置しています。

各観測局、モニタリングポストでは、空間の放射線量が1時間あたりどのくらいかを連続して測定しています。

各地点の測定結果は、次のとおりであり、発電所に起因する影響は認められませんでした。



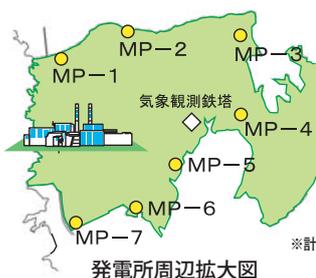
環境放射線観測局
(田鶴浜局：七尾市(地図下線))
空間放射線や風向、風速などを測定しています。



■ 環境放射線観測局(石川県設置)



■ 発電所モニタリングポスト(北陸電力(株)設置)

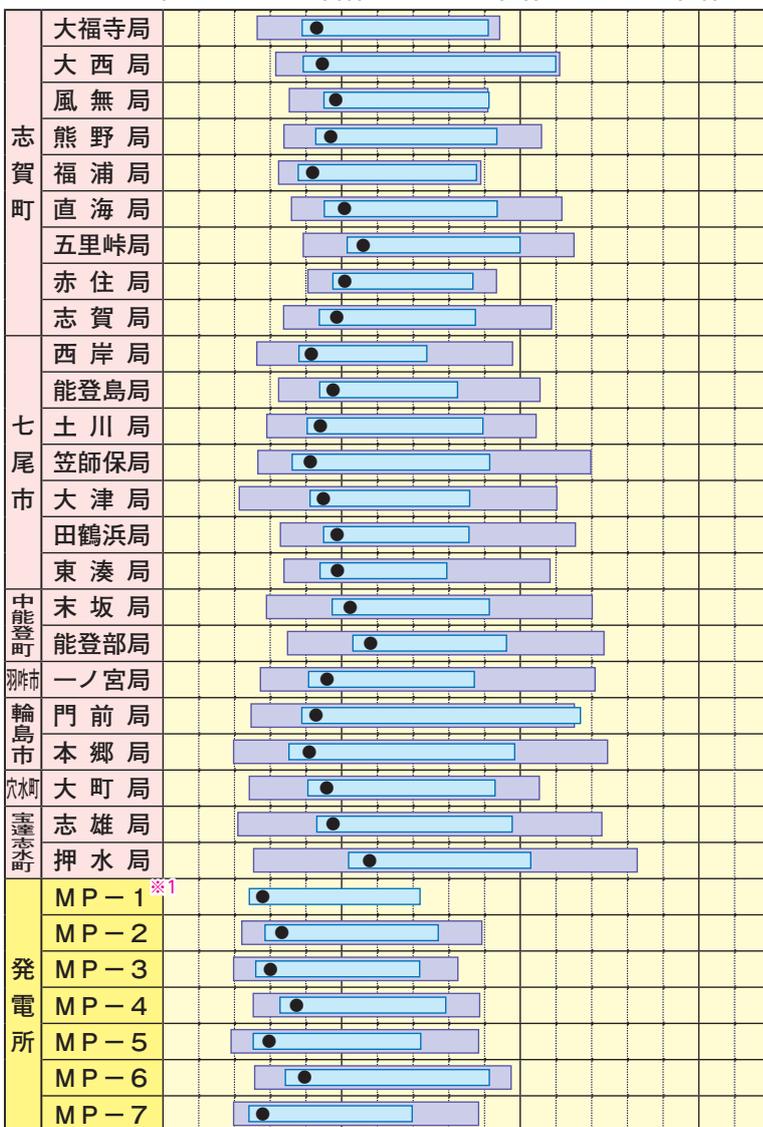


(参考) 排気筒・排水ピットの計数率
(令和2年1月～3月) (単位: cps)

	1号機		2号機	
	排気筒 モニタ	排水ピット モニタ	排気筒 モニタ	排水ピット モニタ
今回の測定値	4～5	10～11	4～5	11～13
過去の測定値	4～5	10～13	4～6	11～14

※計数率(cps)は、1秒間に計測された放射線の数を表しています。

■ 測定結果
0 0.050 0.100 0.150
マイクログレイ(μGy)／時



※1 MP-1は平成30年8月31日に故障し、令和元年6月12日に復旧しましたが、復旧に伴いモニタリングポストの周辺環境が変化するため、過去の測定値の範囲については記載していません。

※ 空間放射線の測定値の単位として、グレイ(Gy)／時が用いられます。マイクロ(μ)は100万分の1を示します。1マイクログレイ(μGy)／時=100万分の1グレイ(Gy)／時

※ 空間放射線の測定値は、通常、宇宙や地面などからの自然放射線によるものであり、0.020～0.100マイクログレイ(μGy)／時程度です。日常よく見られる変動は、降雨による線量率の上昇であり、0.100～0.200マイクログレイ(μGy)／時程度となることがあります。

II 温排水影響調査(令和元年度秋季)

1. 水温調査(調査日:令和元年10月18日)

■ 調査結果(水深1mの水温分布) 単位:℃



※ ■は1号機の放水口位置、■は2号機の放水口位置、●は水温調査地点を示す。

<温排水の状況>

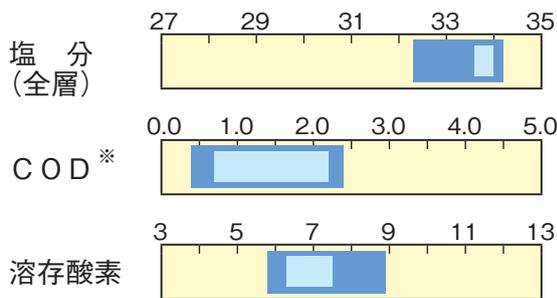
今回は、1号機、2号機とも
運転停止中であり、温排水は
放水されていませんでした。



▲ バンドーン採水器

2. 水質調査(採水日:令和元年10月16、18日)

■ 調査結果(単位:mg/l ただし塩分を除く)

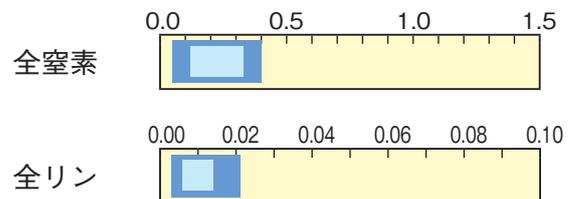


※COD: 化学的酸素要求量(Chemical Oxygen Demand)

(グラフの見方)



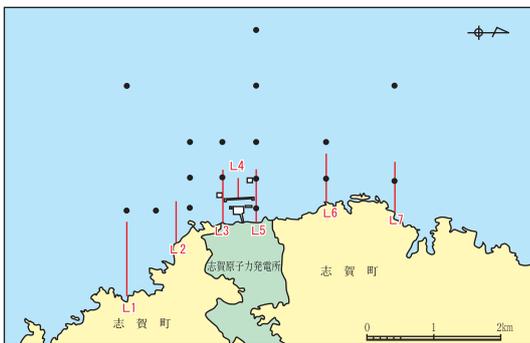
※過去の当季最小値及び最大値は、平成15年度～平成30年度までの調査結果です。



3. 海生生物調査(令和元年10月2、11、14、16～19日)

海生生物調査では、潮間帯生物、底生生物、卵・稚仔及びプランクトンについて調べています。
ここでは、そのうち底生生物のサザエの生息調査についてご紹介します。

■ 調査地点



●: 水質調査地点 | : サザエ生息調査測線

■ 調査結果

調査測線	水深(m)	調査面積(m ²)	調査結果 (平均個体数/25m ²)	過去の調査結果 平成15～30年度 (平均個体数/25m ²)
L 1	3～20	125	4.2	1.2～9.2
L 2	3～20	125	16.0	4.0～14.0
L 3	3～20	125	4.8	2.8～13.2
L 4	15～20	50	2.0	0.0～3.0
L 5	3～20	125	19.8	3.4～21.6
L 6	3～20	125	11.8	1.4～22.0
L 7	3～20	125	18.0	11.6～20.0

<調査結果の概要>

水温調査: これまでの秋季調査結果と比較すると、水温、塩分とも過去の範囲にありました。
同一水深層での温度差は0.4～1.0℃、塩分差は0.1～0.2でした。鉛直的には、上下層間の差は、水温、塩分とも小さい結果でした。

水質・底質調査: これまでの秋季調査結果と比較すると、水質はほぼ同程度でした。底質は同程度でした。

海生生物調査: これまでの秋季調査結果と比較すると、いずれの項目も出現状況はほぼ同程度でした。